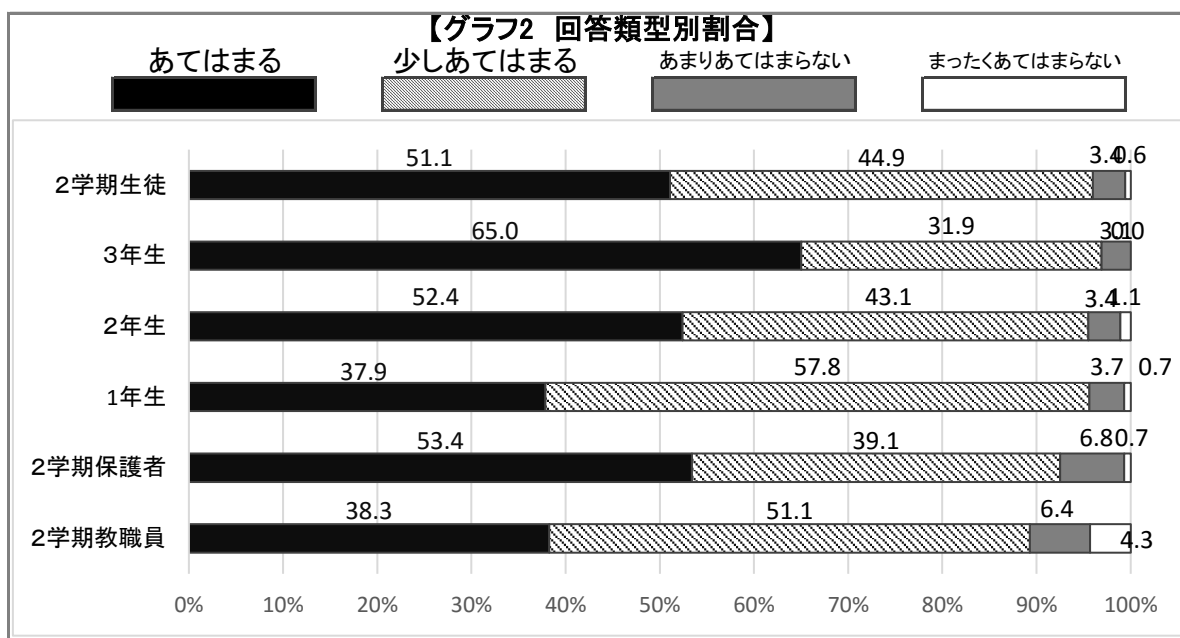
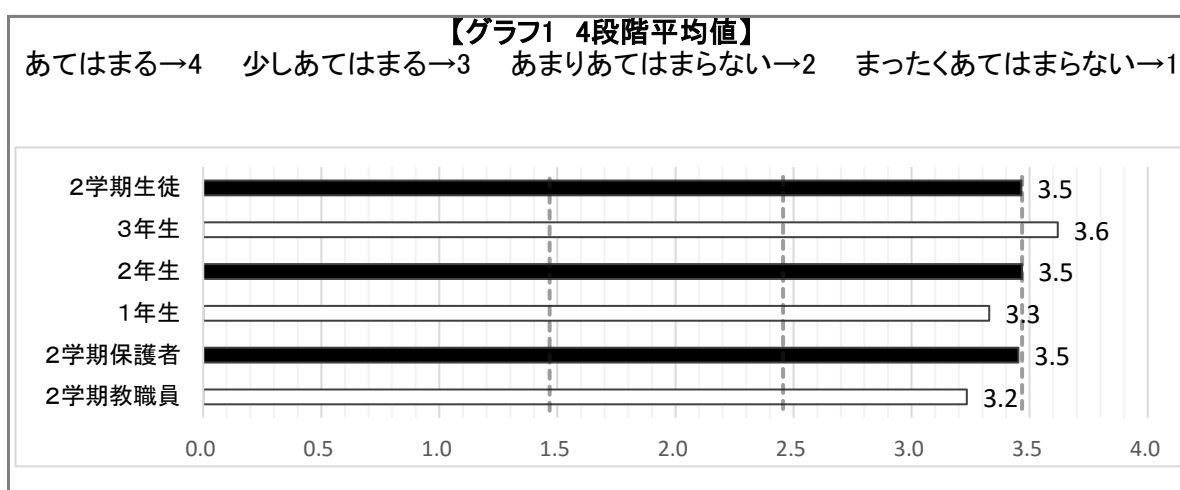


| No1 | まなび | 学び合い |
|-----|-------------------------------------|------|
| 福津市 | ④ 友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできたか | |
| 中プロ | (共に学ぶ) 友達と共働して考えを練り上げ、課題を解決することができる | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|--|-----|-----|
| | | 前 | 後 |
| 生徒 | 友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりして課題を解決することができる。 | A | → A |
| 保護者 | お子さんは、友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。(授業参観の様子やお子さんとの会話から) | B | → A |
| 教職員 | 授業において、子どもが友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりして課題を解決することができるように指導を工夫している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

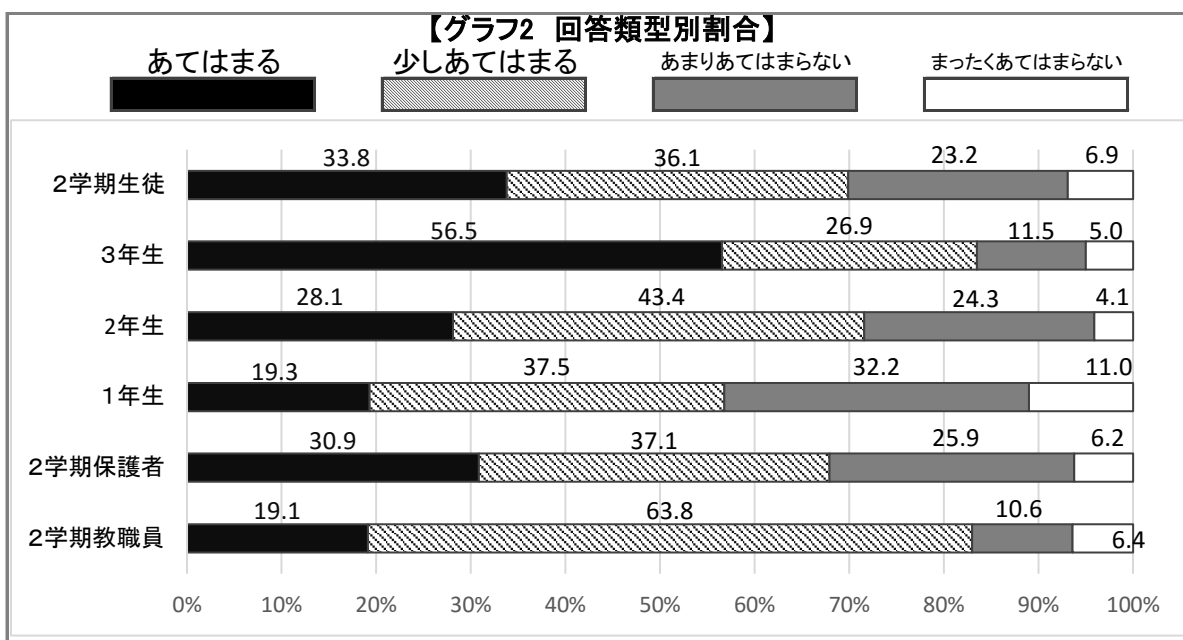
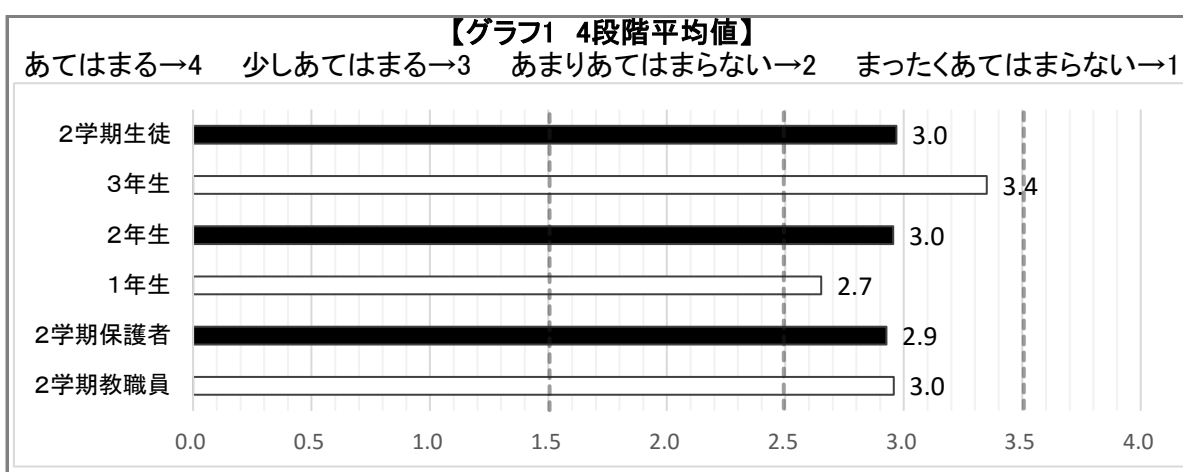
4段階平均値については、保護者の項目の達成度が0.1ポイント上がり、A評価となっている。また、回答類型別割合については、肯定的な回答をした95%をどの学年も超えている。2、3年生については、ともに3.5以上と充実した交流活動が行われていると考えられる。しかし、1年生においては3.3と前期よりも0.1下がっている。交流活動を行う際のテーマや話し合い方、表現方法など、具体的な交流活動の方法を学年や各教科で見直していく必要がある。

本年度のOJT(授業公開)と校内研修で、ICTを活用した授業の取組の研修を行った。来年度は校内研修の中で、タブレットを活用した交流活動の仕方(MeetやZoom、Jambordなどを利用)について研修を行い、オンライン授業でも交流活動ができる取り組みを目指す。

| | | |
|-----|-------------------------------------|------|
| No2 | まなび | 家庭学習 |
| 福津市 | ⑥ 平日の家庭学習時間1時間以上の割合 | |
| 中プロ | (自ら学ぶ) 進んで1日70分以上の宿題、予習を含めた家庭学習ができる | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---|-----|-----|
| | | 前 | 後 |
| 生徒 | 1日70分以上の家庭学習(宿題・予習・復習・塾など)を行っている。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんは、1日70分以上の家庭学習(宿題・予習・復習・塾など)を行うように声掛けをしている。 | B | → B |
| 教職員 | 家庭学習が習慣化するように各教科の宿題や自学、週末課題などの量や質を工夫している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

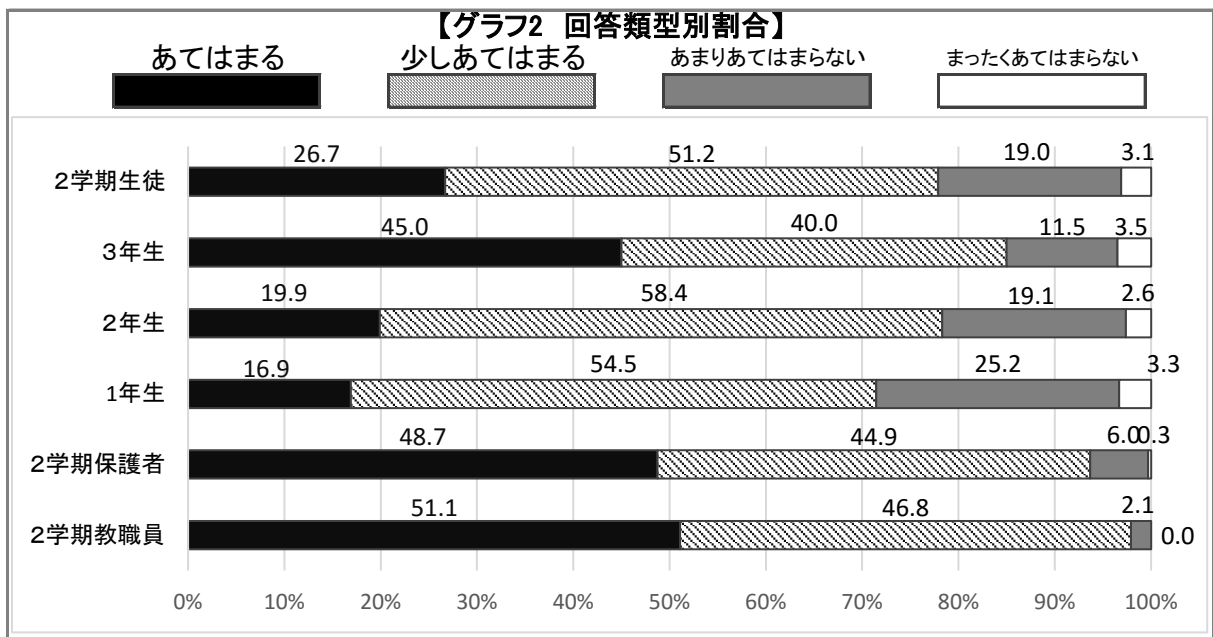
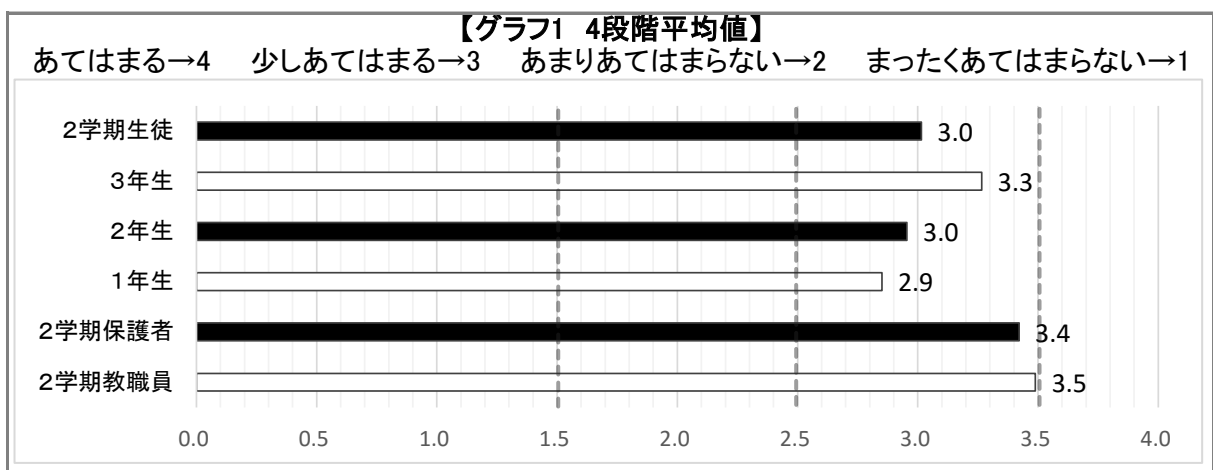
4段階平均値については、3年生が0.4ポイント増加し、1年生は0.2ポイント減少している。
また、回答類型別割合については、肯定的な回答が3年生で10.6%増加し、1年生では11.3%減少している。
1、2年生に関しては、毎日の自学ノートと週末課題に取り組んでいる。しかし、内容については個々に差があり、自学ノートの在り方自体をを考える必要がある。また、提出率は良いが、決まった生徒が提出できていない。生徒が取り組みやすい課題や方法を考える必要がある。生徒がタブレットを持ち帰ることができるようになった。そのため、自学ノートにこだわらず、eライブラリや学習アプリを用いた家庭学習を進めていく必要がある。(タブレット内で課題を提出) 来年度は、研究推進部会を中心にタブレットによる家庭学習のシステムについて研修し、運用を目指す。

| | | |
|-----|-----|------|
| No3 | こころ | 自尊感情 |
|-----|-----|------|

| | |
|-----|--|
| 福津市 | ① 自分にはよいところがあると思う |
| 中ブロ | (自信をもつ) 学校生活や地域の活動の中で、自分の良いところを伸ばすことができる |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---------------------------------|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 自分にはいいところがあり、自分で伸ばそうとしている。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんのいいところ褒め、励ましている。 | B | → B |
| 教職員 | 生徒を褒めたり、生徒のよいところを伸ばす指導をしたりしている。 | A | → A |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



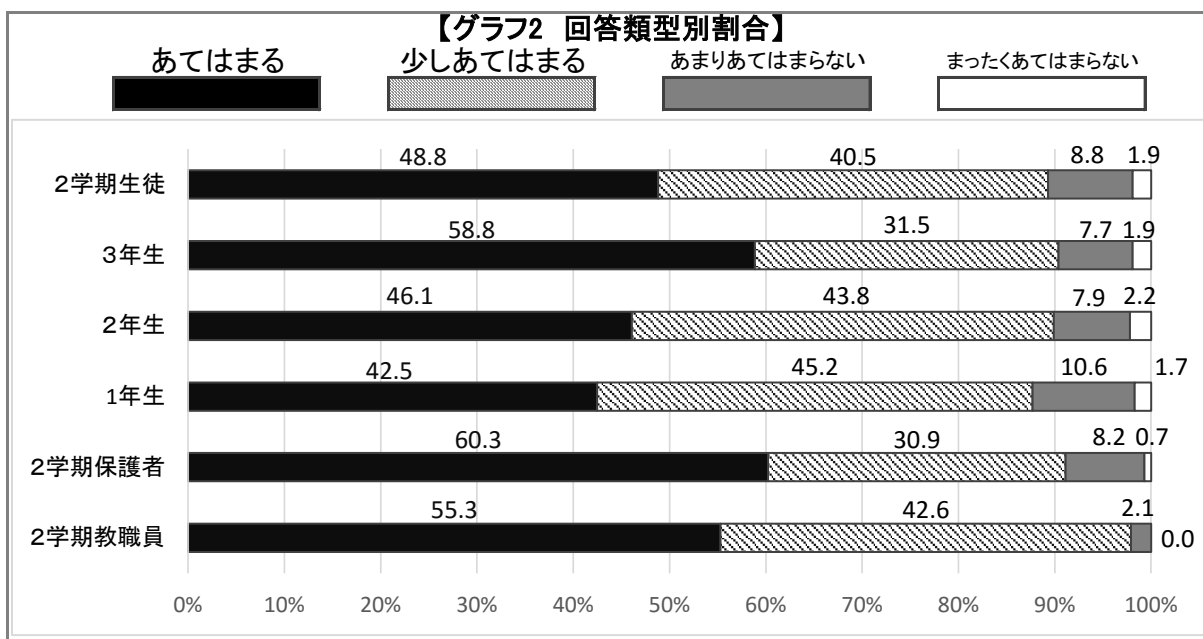
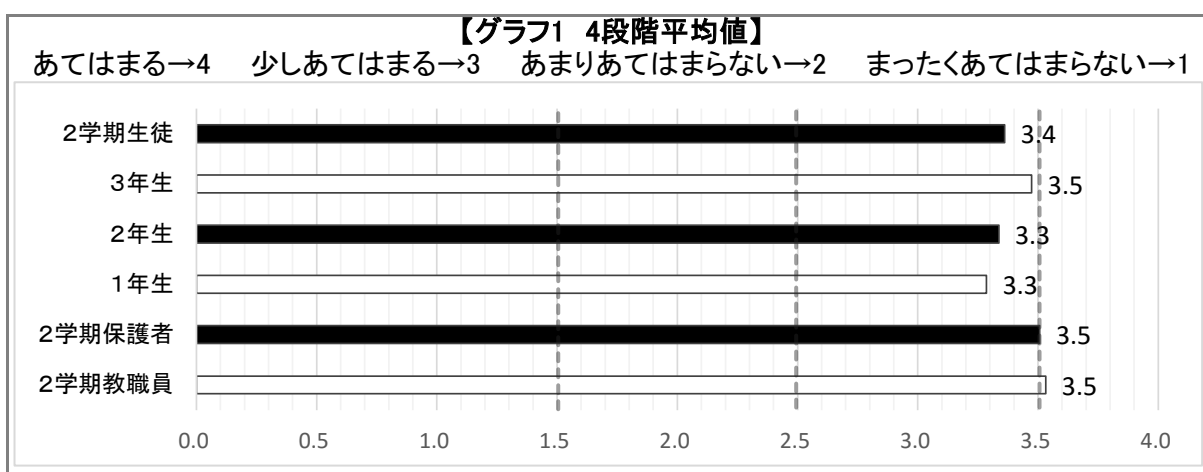
【考察】

4段階平均値については、3年生が0.2ポイント増加し、1・2年生は0.1ポイント減少している。
 また、回答類型別割合は、肯定的な回答が3年生で7.2%増加し、1年生で8.2%減少している。
 3年生は、進路実現に向けて、日々目標を持ちながら、学習等に取り組んでいく中で、自身を肯定的に捉えることのできた反面、1年生については、行事等の少なさに加え、部活動の停止と通常の活動に制限が加わるなど普段の生活の中で、自身を肯定的に捉えることができる機会が少なかったことが原因に挙げられる。
 これらを踏まえて、来年度に向けて、学級活動や委員会活動を通して、最終的に自身を肯定的に捉えられるような取り組みを行っていくことが求められる。

| | | |
|-----|-----|---------|
| No4 | こころ | 学校生活の充実 |
| 福津市 | | / |
| 中プロ | | / |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|------------------------------|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 学校での生活は楽しい。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんは学校での生活を楽しんでいる。 | A | → A |
| 教職員 | 生徒が充実した学校生活を送れるように指導を工夫している。 | B | → A |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

4段階平均値については、教職員が0.1ポイント上がりA評価になっている。また、3年生が0.1ポイント増加、2年生・1年生は0.1ポイント減少している。

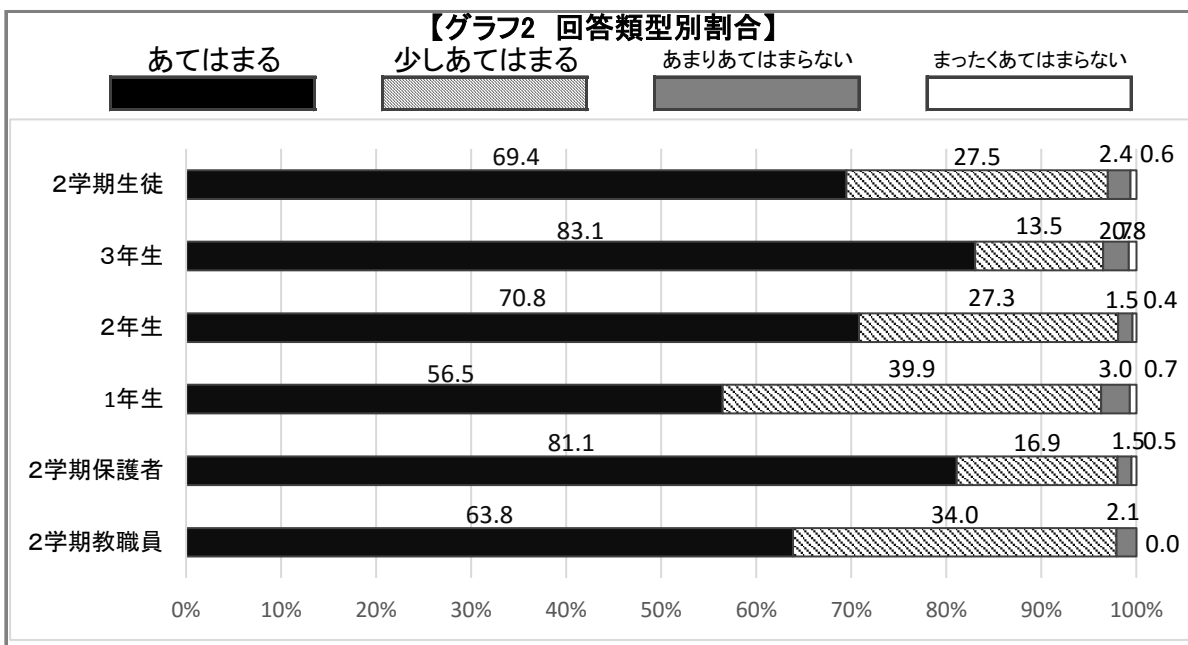
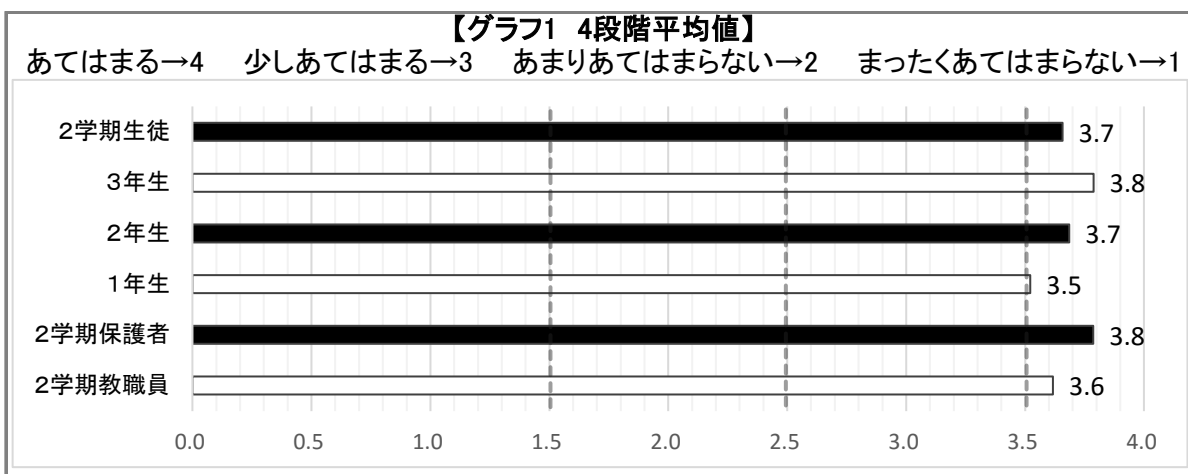
回答類型別割合についても、肯定的な回答が教職員で3.8%増加している。

教職員について、コロナ禍の状況の中で、できる範囲内で最大限の取り組みを行うことを日々意識し、実践した結果であることが挙げられる。生徒については、No.3同様、様々な行事の延期や縮小が影響していると考えられる。

| | | |
|-----|--------------------|------|
| No5 | こころ | 規範意識 |
| 福津市 | ② 学校のきまり(規則)を守っている | |
| 中ブロ | ／ | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|------------------------------------|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守っている。 | A | → A |
| 保護者 | お子さんは学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守って生活している。 | A | → A |
| 教職員 | 学校のきまり(時間や服装・頭髪など)を守るよう日常的に指導している。 | A | → A |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



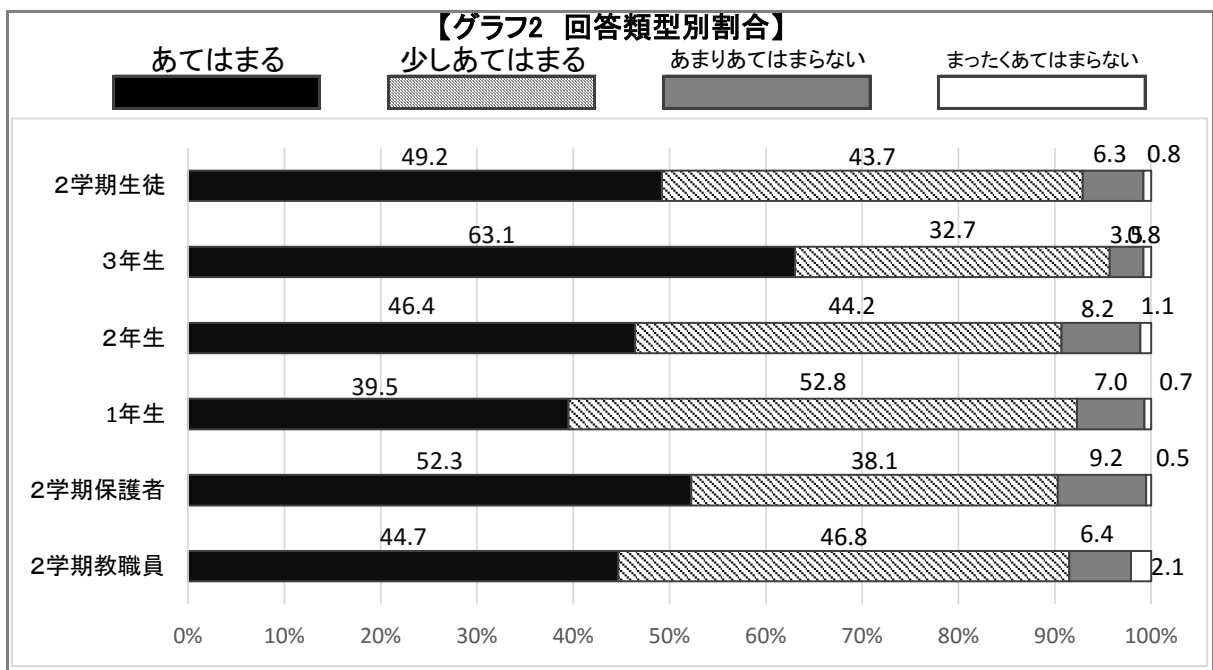
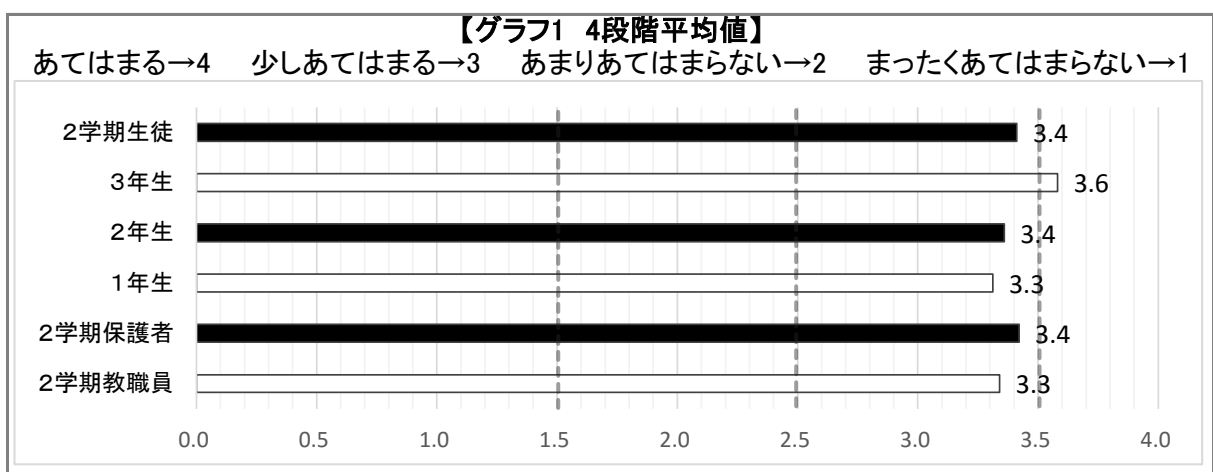
【考察】

4段階平均値については、3者ともに高い。
 回答類型別割合については、肯定的な回答がどの項目においても95%をこえている。
 平均値の高さは学校、地域、家庭の連携が取れた成果だといえる。学校においては、生徒指導部を中心に教職員、1人1人が共通した意識のもと生徒指導にあたることが出来た。学校の思いや生徒の学校での様子を学校通信、学級通信、OS行事等を通して、地域や家庭に知ってもらい、共通認識を持つことができた。
 来年度以降も現在のバランスの取れた連携を維持、発展させていきたい。

| | | |
|-----|---|------|
| No6 | こころ | あいさつ |
| 福津市 | ／ | |
| 中ブロ | (関わりを広げる) 挨拶の意義を理解した上で先生や友だち地域の方に進んで挨拶をしている | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---------------------------------------|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 先生や友だち、地域の方に進んであいさつをしている。 | A | → B |
| 保護者 | お子さんは、先生や友だち、地域の方に進んであいさつをしている。 | B | → B |
| 教職員 | 生徒が先生や友だち、地域の方に進んであいさつをするよう啓発指導をしている。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

4段階平均値については、生徒が0.1ポイント下がりB評価になっている。2年生・1年生が0.1ポイント減少している。

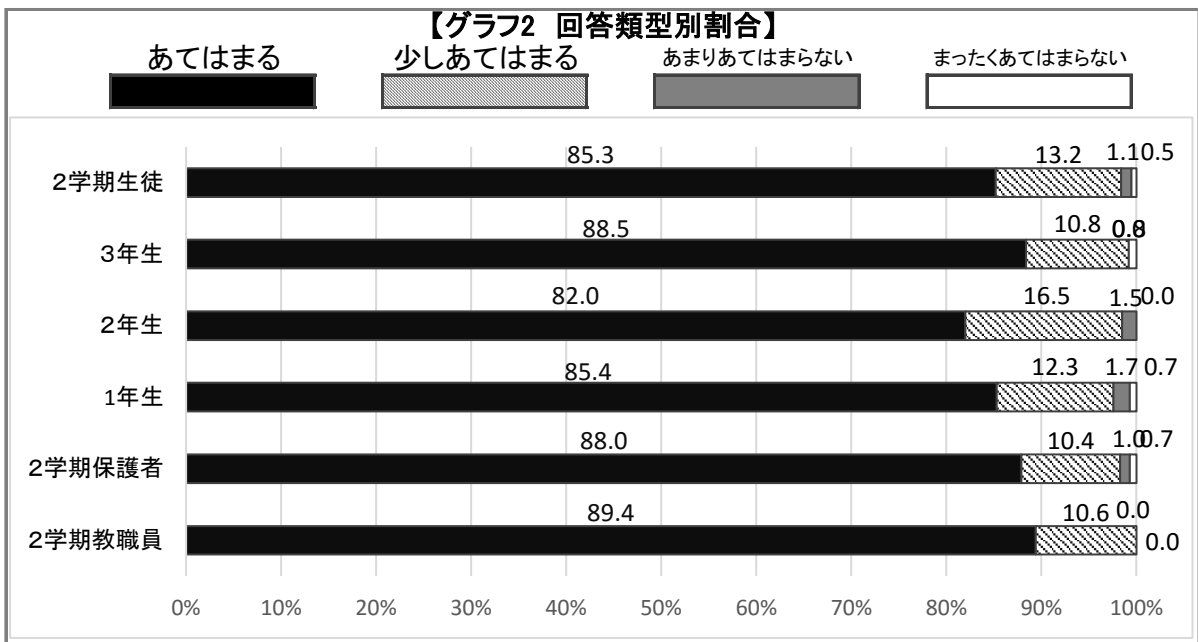
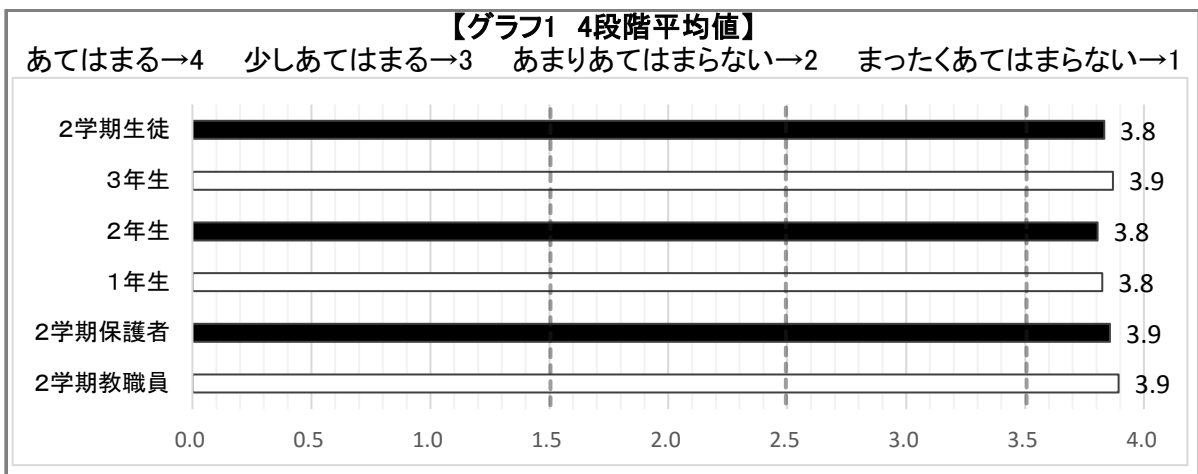
回答類型別割合については、肯定的な回答が2年生で3.7%1年生で1.7%減少している。

学校全体で捉えると普通の学校生活において、あいさつは良くできている。しかし、アンケートの結果から考えられるのは、あいさつを行うことの持つ意味を理解して実践するに至っていない生徒が存在する現状が反映されている。学校生活、授業等を通して、その意味を再度確認していく必要がある。そのためには、教員側が率先垂範を心がけ、日常の姿から生徒にあいさつの持つ意味を示していく必要があると考える。

| | | |
|-----|----------------------------|------|
| No7 | こころ | 人権尊重 |
| 福津市 | ⑤ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う | |
| 中ブロ | ／ | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|-------------------------------------|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 | A | → A |
| 保護者 | お子さんに、いじめはどんな理由があってもいけないことだと話をしている。 | A | → A |
| 教職員 | 生徒に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している。 | A | → A |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



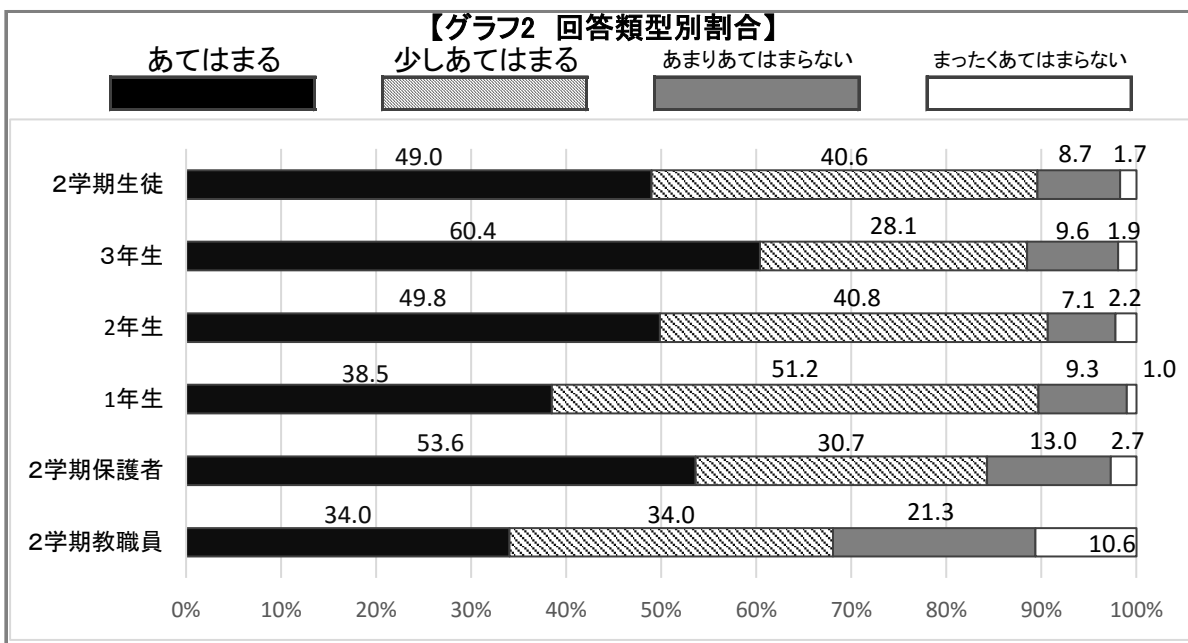
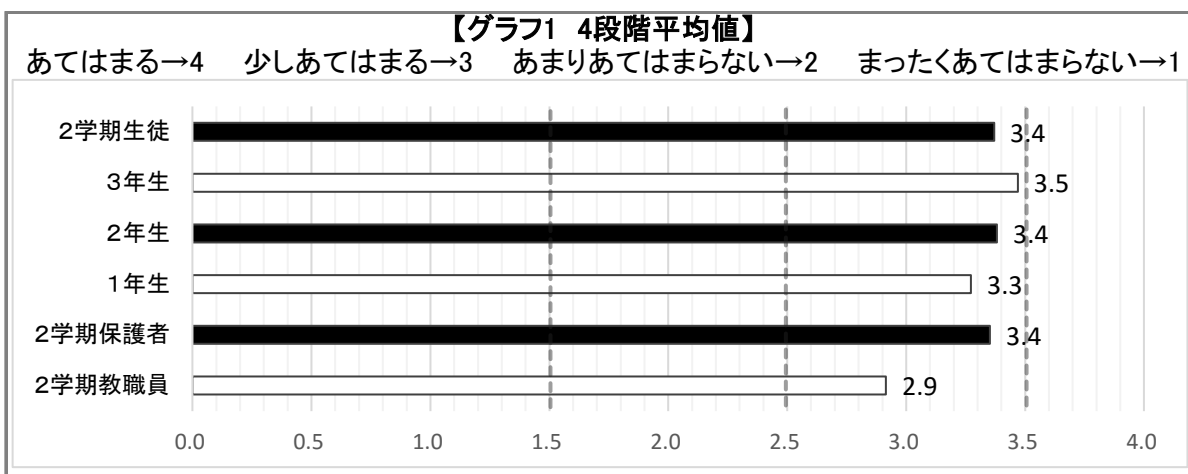
【考察】

4段階平均値については、3者ともに高い。
 回答類型別割合については、肯定的な回答がどの項目も98%を超えている。
 No.5同様、連携の取れたきめ細やかな生徒指導を行ってきた成果といえる。また、道徳の授業、人権学習を通して、多様性を認めることや他者を尊重する姿勢の大切さを学ぶことができたことも結果に大きく関与していると考えられる。

| | | |
|-----|---|------|
| No8 | からだ | 体力向上 |
| 福津市 | ／ | |
| 中プロ | (強い体をつくる) 自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組むことができる | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組んでいる。 | A | → B |
| 保護者 | お子さんは、体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組んでいる。 | B | → B |
| 教職員 | 体育の授業や部活動、社会体育などで、自ら課題を設定し、目標に向かって運動に取り組むよう指導している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



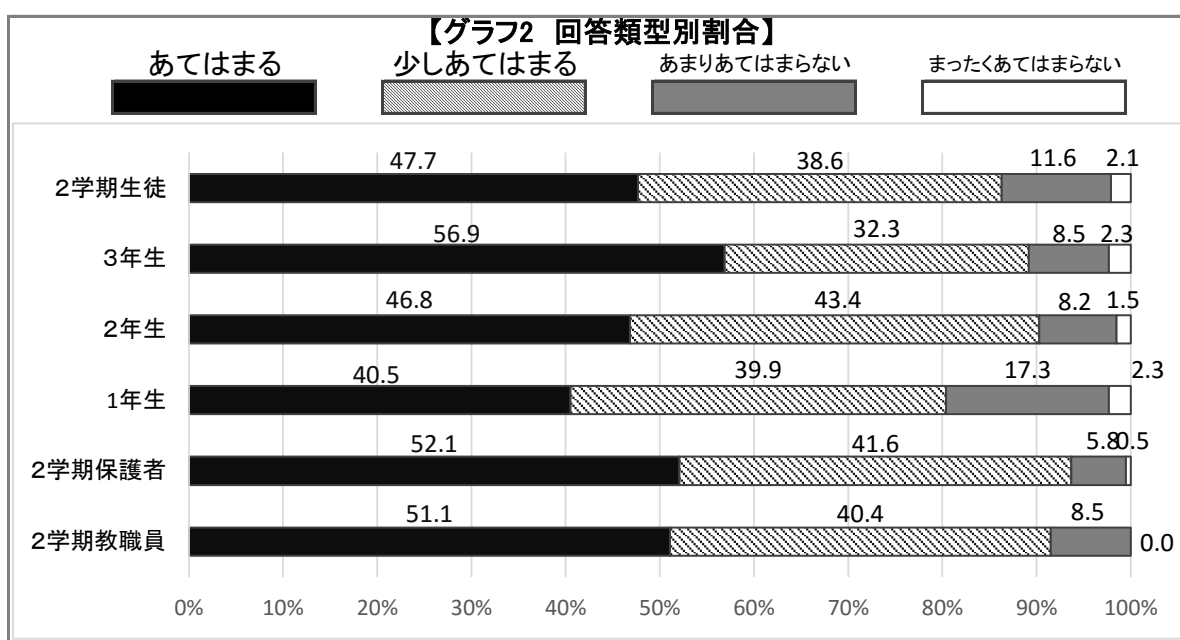
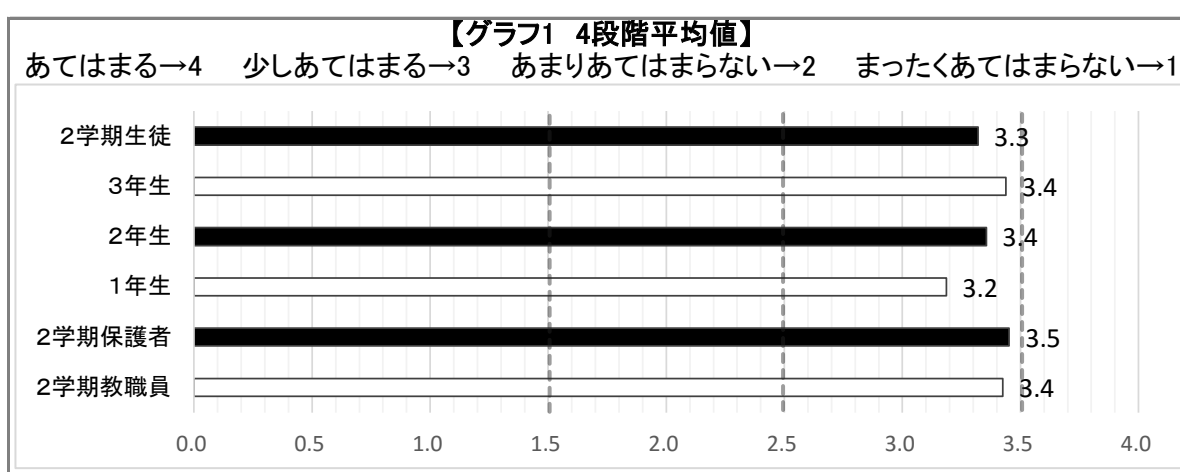
【考察】

4段階平均値については、生徒が0.1ポイント下げてB評価となっている。
 回答類型別割合については、肯定的な回答は3年生が4.3%、1年生が3.7%減少している。
 繰り返されるコロナによる、体育等の活動の制限や部活動の停止により、生徒が自ら目標を設定し、取り組もうとする機会が減少していることが影響していると考えられる。
 今後は、生徒が自ら実践したくなるような課題を提案し、自主的に取り組む活動を取り入れていく。

| | | |
|-----|--|-----|
| No9 | からだ | 食生活 |
| 福津市 | ③ 毎日朝食を食べているか | |
| 中ブロ | (健康な体をつくる) 好き嫌いせず、食事を通して健康な体と心をつくることのできる | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---------------------------------------|-----|-----|
| | | 前 | 後 |
| 生徒 | 好き嫌いをせず、食事を通して健康な体づくりを行っている。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんに、朝晩の食事をバランスよくとらせている。 | A | → A |
| 教職員 | 生徒が好き嫌いをせず、食事を通して健康な体づくりを行うように指導している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D

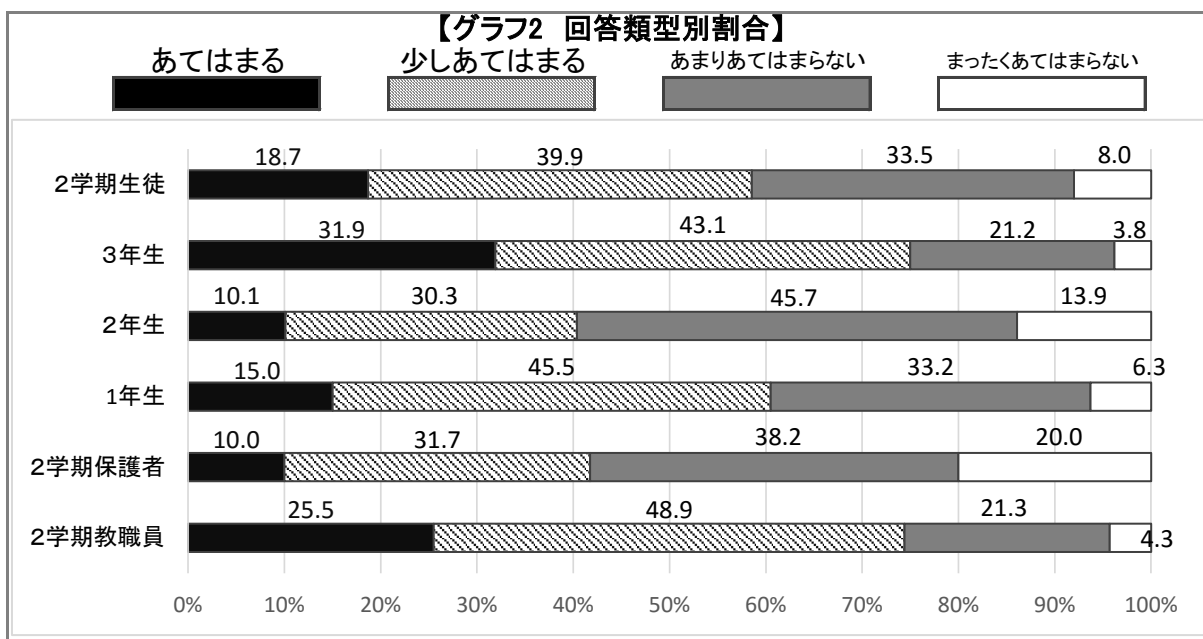
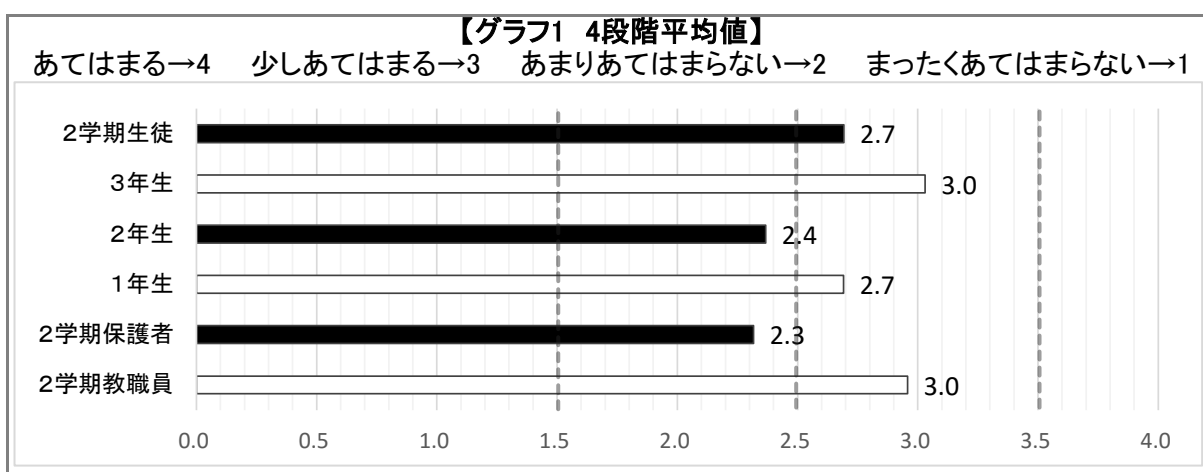


【考察】
 4段階平均値については、3者ともに1学期と同じで推移していない。
 回答類型別割合については、肯定的な回答がどの項目ほぼ同じである。
 原因として食育に対する教職員の意識は、肯定的な回答が91%と高いことがうかがえるが、実態としては、食育を学級担任のみが主となっている学級もあり、統一された取組や改善が日常的に行われていない。
 今後は、家庭科の授業やお弁当の日の取組以外にも、学年・学校全体で食育に対する取組や指導を協議し、取り組んでいく必要がある。

| | | |
|------|-------------------------|------|
| No10 | 家庭地域 | 地域参画 |
| 福津市 | ／ | |
| 中ブロ | (貢献する) 地域のために貢献することができる | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|--|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 学校で行く松林清掃や地域行事、ボランティア活動に参加して、地域のために貢献している。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんは、地域の清掃活動など地域行事に参加している。 | C | → C |
| 教職員 | 松林清掃などを通して、地域貢献の意義について指導している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

4段階平均値については、生徒が0.1ポイント教職員が0.4ポイント増加している。特に3年生が0.4ポイント、1年生が0.2ポイント増加し、2年生が0.2ポイント減少している。

回答類型別割合については、肯定的な回答が教職員で27.3%、1年生が9.8%、3年生が19.5%増加しており、2年生が10.7%減少している。

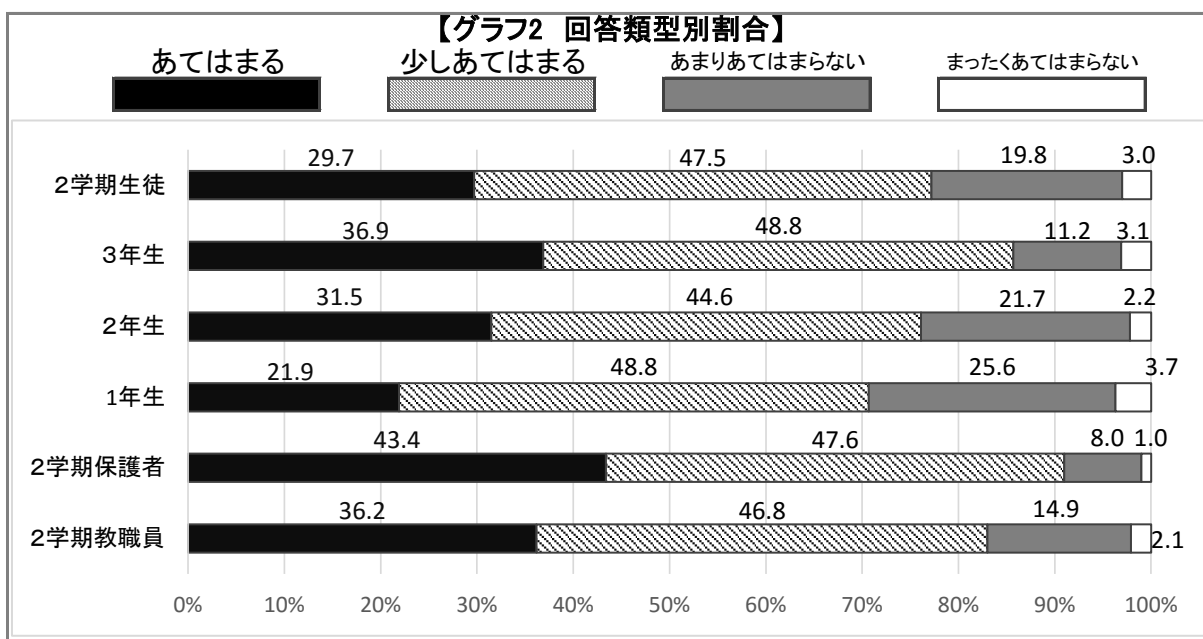
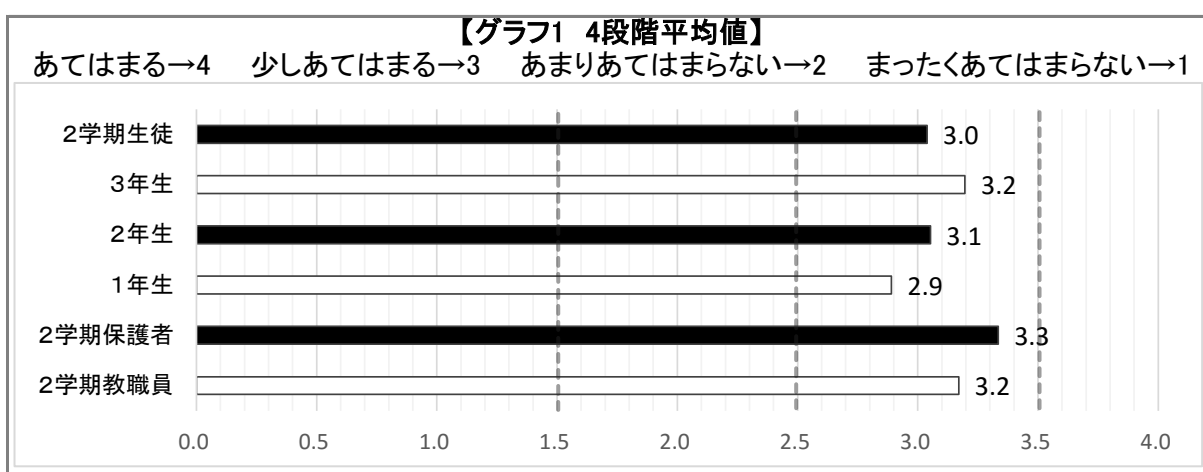
2年生は6月に予定していた松林清掃がコロナ感染拡大で中止になり、3月に再設定したが修学旅行と重なりまたも中止となった。1年時も中止になっており、まだ一度も松林清掃を経験していないことが要因になっている。

来年度新3年生は、地域ボランティア活動への積極的な参加を促し、早いうちに松林清掃を学年で行えるようにしたい。新1年生、新2年生は、部活動のすき間時間に地域ボランティアが行えるよう、案内の仕方を工夫したい。

| | | |
|------|-----------------------------|--------|
| No11 | 地域家庭 | 地域への関心 |
| 福津市 | ⑦ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか | |
| 中ブロ | ／ | |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 |
| 生徒 | 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんと地域や社会で起こっている問題や出来事などについて話をしている。 | B | → B |
| 教職員 | 生徒が地域や社会で起こっている問題や出来事について、関心をもつように指導している。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



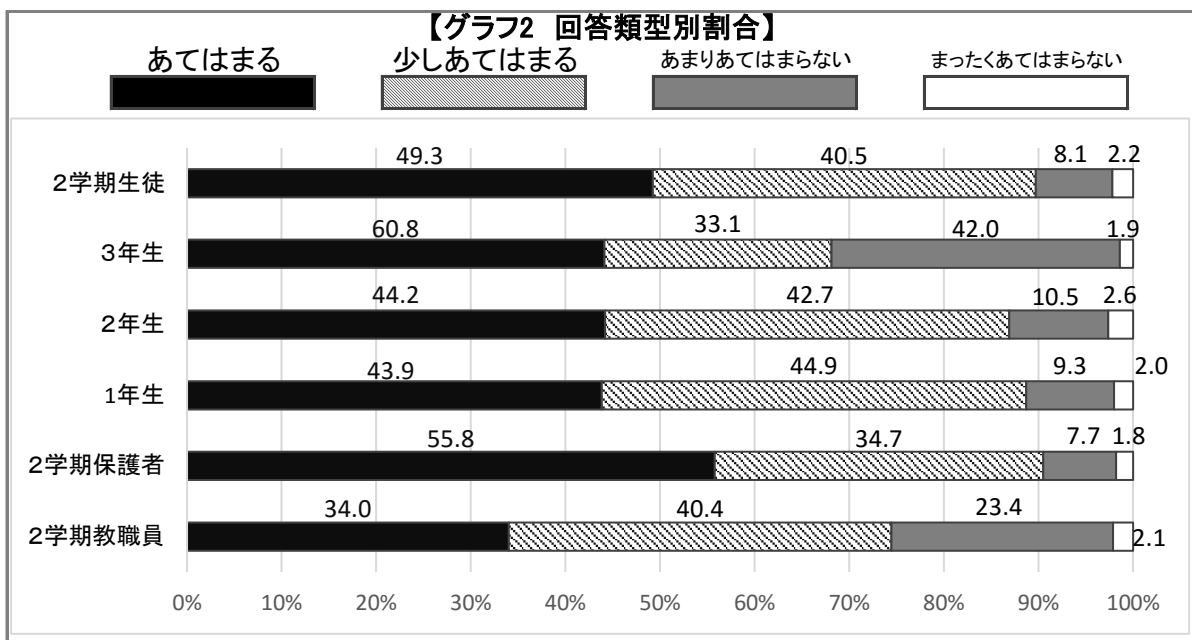
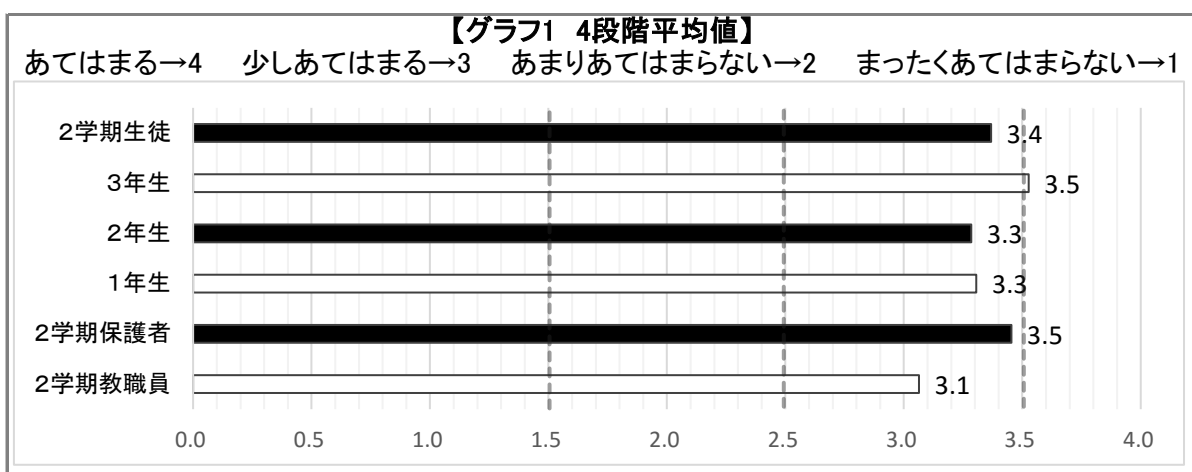
【考察】

4段階平均値については、教職員が0.3ポイント増加している。
 回答類型別割合については、肯定的な回答が教職員は12.4%、3年生は7.2%増加している。
 様々な工夫をして地域との交流を図り取り組みを行ったが、感染対策でリモートで行ったため、対面形式に比べて興味・関心が抱きにくかったと思われる。
 苦労が多かった分、教職員の達成感が生徒を上回ったのではないかと。3年生は未来会議を通して、SDGsの意義を学び、前期に比べて変容が見られた。

| No12 | 家庭地域 | SNSとの関わり |
|------|------|----------|
| 福津市 | | / |
| 中ブロ | | / |

| 福間中 | 項目 | 達成度 | |
|-----|---------------------------------------|-----|-----|
| | | 前 | 後 |
| 生徒 | 学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守っている。 | B | → B |
| 保護者 | お子さんに、学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守るよう話をしている。 | A | → A |
| 教職員 | 生徒に、学校や家庭で決めたスマホ等の使用ルールを守るよう話をしている。 | B | → B |

達成度は【グラフ1 4段階平均値】が、3.5以上→A 2.5以上→B 1.5以上→C 1.5以下→D



【考察】

4段階平均値については、教職員が0.1ポイント減少している。
 回答類型別割合については、肯定的な回答が3年生で5.2%増加し、教職員が10.9%減少している。
 中学生はスマホの所持率が上がる過渡期である。1～2年生は不適切使用や他者とのトラブルもあり、それぞれの事象をとらえながら個別指導や学年全体での情報共有をしている。3年生になるとスマホ学習が進んでいき、徐々にマナーを身につけ、トラブルを避ける方法を学んでいる。
 教職員としてはSNSの使用に関する生徒指導にかなり手を割かれており、保護者との温度差が感じられるので、今後は家庭と連携したSNSの使い方指導に取り組む必要がある。